

長崎県技術士会の発展に向けて

長崎県技術士会 副会長 川村 昭宣

1. 日本技術士会長崎県支部発足と長崎県技術士会の関係

公益社団法人日本技術士会の下部機関として、長崎県支部の設立準備が進み、今年6月には正式に発足会が開催されます。詳細は日本技術士会長崎地区代表幹事の毎熊技術士が報告しておられますのでご参考ください。

今後長崎県技術士会と長崎県支部は一体となって活動出来る様、体制整備しつつあり、今年6月14日（土）の長崎県技術士会の総会は、長崎県支部の設立祝賀会と同時開催の予定です。

長崎県支部の発足に伴い、今年は長崎県技術士会が大きく発展する年になると確信しております。

長崎県内在住の技術士は数百人いると思われますが、その中、長崎県技術士会には長崎県内在住の技術士・技術士補約150人が参加されていて、そのうち日本技術士会の会員は約50人です。

一方長崎県支部は長崎在住の日本技術士会の会員のみで構成され、約120人です。

従って、長崎県内の技術士・技術士補の中で約50人が長崎県支部と長崎県技術士会の両方の会員、約100人が長崎県技術士会のみの会員、約70人が長崎県支部のみの会員ということになります。これらの方が長崎県内の技術士活動の中核を担っていると言えます。

現在長崎県内には、両方の会の何れにも入会し

ていない技術士が多く居られます。長崎県技術士会を発展させていくためには、更に多くの方に入会していただく事が非常に重要であり、この機会に入会者が増える様、更に努力してまいります。

皆様も知り合いの方に入会を勧めて下さる様、御願いいたします。

2. 産業基盤維持管理技術研究会（長崎県技術士会後援）とCPD

長崎県技術士会顧問の岡林隆敏長崎大学名誉教授のご尽力により、昨年長崎大学の中村聖三教授を会長として産業基盤維持管理技術研究会が発足し、長崎県技術士会も後援しております。

昨年12月12日に長崎大学にて、平成25年年度の第1回研究会が開催され、約50人の方が出席されました。長崎大学の岡林名誉教授から「橋梁維持管理と遠隔モニタリング」、(株)フジエンジニアリング代表取締役の枚本正信様から「構造物の長寿命化に向けた一提案—金属溶射の橋梁施工を中心に—」についてご講演いただきました。

また第2回研究会として、金属溶射の現地見学会が開催されました。当初今年の2月7日のみの予定でしたが、参加希望者が多かったため、3月7日にも追加開催されました。



写真：溶射状況 2014.02.07

(株)富士技研福岡工場で「ガスフレーム溶射」、「アーク溶射」、「プラズマアーク溶射」のデモを見学し、参加者も実際に溶射を体験させてもらいました。更に九州自動車道宇美川橋の現地で、鋼桁端部に金属溶射された実橋梁の状況を視察し、非常に良好な状態である事を確認出来、貴重な経験となりました。

平成26年度は長崎大学にて、5月30日(金)、8月22日(金)、11月7日(金)、1月23日(金)の4回開催予定です。

講師として、日本全国の大学や研究機関の方々に来ていただき、維持管理についての最先端の研究状況を説明してもらうと共に、長崎県内の関係者から県内の状況等の説明もしていただく予定です。平成25年度に続いて、見学会を開催することも検討中です。

是非ご参加ください。

長崎県内では、なかなかCPD行事に出席する機会が少ないので、長崎県技術士会では年2回の講演会を開催計画しております。更に後援の形で地盤研究会や産業基盤維持管理技術研究会に参画しておりますが、この研究会が夫々年4回開催されますので、総て出席すると合計10回で30～40時間のCPD実績となります。

これらの研究会も有効に活用ください。

つしまみらい計画

長崎県土木部新幹線事業対策室長 有吉 正敏
(前長崎県対馬振興局建設部長)

(総合技術監理・建設)

対馬最大の課題は、人口減少が加速していることです。対馬の人口は、昭和35年の約7万人をピークに減り続け、平成22年の国勢調査では半

分以下の約3万4千人となっています。特に近年の減少は顕著で、これまで、5%前後だった減少率が、平成22年は約10%へ急増しています。これは少子高齢化による自然減に加え、基幹産業である林業、水産業、建設業等の衰退による、「働く場の減少」で、島外に人口が流失していることが原因です。

このため対馬振興局建設部では、定住人口の維持拡大にむけ、さまざまな施策を行ってきましたが、河川改修率は県全体が55.4%に対し34.4%、道路改良率は県全体が68.7%に対し54.5%であり、対馬島民の産業や生活の安全安心を支える社会基盤の整備が大きく遅れています。

また、韓国から対馬への旅行者は、平成15年に1.5万人だったものが、平成25年には18万人を突破するなど、10年間で10倍以上に急増しています。このため港湾施設や観光周遊道路など受け入れ基盤の不足が浮き彫りになっています。

過去10年以上の長期にわたり公共事業が減り続けた結果、対馬振興局建設部の平成23年度予算は約51億円となり、平成10年度予算約257億円の約5分の1にまで減少したため、これまで地域の課題に答えるべき明確なアクションプランを示すことができませんでした。

しかし、東日本大震災以降、国の方針も国土強靭化へ転換し、大型補正が実施され、平成24年度対馬振興局建設部最終予算は約84億円と増加へ転じました。また、平成26年度国土交通省公事業費も対前年度比1.02倍確保されるなど今後予算削減も回避できる見込みとなっていました。

この転換期を迎える、対馬の社会基盤整備を担う対馬振興局建設部では、対馬島民が安心して暮ら

していけることはもちろんのこと、観光や水産業などの産業振興、交流人口の拡大による地域振興の指針となる「つしまみらい計画」を作成しました。

この計画は、建設部職員が観光、水産物輸送、救急医療等に係る関係者の声を直接聴き、現状や課題を整理し、目指すべき方向や実施すべき施策を横断的に議論し作成したものであり、職員自らが「自分たちは何をすべきか」を考え「行動指針」とすることにより「より効率的効果的な事業執行」につなげることを主な目的にしています。

また、この計画は、対馬振興局建設部が目指すべきいくつかの方向性をまとめたものであり、具体的な達成時期や必要な予算等を示すものではありませんが、島民の皆様に、私たちの目指す方向を御理解いただき、協働による事業推進を目指したいと考えております。

この計画が、対馬の未来を明るくする手助けになることを願っています。

以上は今年3月に対馬振興局建設部の整備計画として作成した「つしまみらい計画」の「はじめに」に記載した私のあいさつの文章です。

詳細な内容をここで紹介することは紙面の都合上できませんので、一部分だけ紹介いたします。

計画の基本方針は「定住人口の維持拡大」「交流人口100万人実現」の2つとしました。

この基本方針を実現するため、道路事業「日常の暮らしの利便性向上を図る生活道路整備」「産業復興や観光客のおもてなしを図る幹線道路整備」「道路防災・交通安全の向上を図る道路整備」、河川事業「浸水被害を回避し、地域環境や利水に配慮した河川整備」、砂防事業「土砂災害から人命財産を保全する斜面対策の実施と土砂災害防止法に

基づくソフト施策の実施」、港湾漁港事業「比田勝港、巣原港における交流人口100万人受け入れ施設整備」「10万総トン級クルーズ客船が円滑に寄港できる受け入れ態勢の構築」「韓国との地理的優位性を活かした高速船物流の導入が可能となる国際フェリー埠頭およびオープンスペースの確保」「災害に強い港湾・漁港の整備、水産物供給基盤の整備」を行動指針としました。

行動指針の中には現時点では「夢物語」と言われそうなものもありますが、対馬の未来が少しでも明るくなるよう、計画の実現に向け職員や対馬の皆様と力を合わせ努力していきたいと考えています。

日本技術士会九州本部

-長崎県支部設立状況報告

長崎地区代表幹事 毎熊 元

4月も半ばに近づき、春爛漫の候となりました。会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍のことと存じます。

平成25年6月に代表幹事に推されて以来、県技術士会、日本技術士会の会員の皆様方には、会の活動にご協力頂き感謝申し上げます。

日本技術士会関係では、長崎地区を長崎県支部へ移行することが就任後の初仕事となりました。

日本技術士会が平成23年度に公益社団法人の認定を受けて、九州支部が九州本部と名称を改めしたことにより、九州各県に支部を設置出来ることとなりました。

九州本部の指導もあり、長崎地区から支部への移行に対し、アンケートを実施しましたところ、

約2／3の皆様から同意を得ましたので、発議書への署名捺印をお願いしました結果、6割の同意書を頂きました事から、九州本部通じ、統括本部（東京）への支部設置申請を行い、平成26年1月9日に統括本部理事会において長崎県支部設置が決定されました。

その後、1月14日から支部役員（幹事）選挙受付となり、10人以上の役員を必要としましたので、県技術士会役員11名の方に立候補をお願い致しました。

日本技術士会九州本部長崎地区の正会員の皆様方には2月の初旬に統括本部より信任投票用紙が郵送され、3月5日が投票締め切り、開票でしたが、投票率79%、信任率98.5%の効率で多くの方に信任いただき感謝申し上げます。

今後の手続き予定と致しましては、4月中旬に九州本部による支部長の承認、5月中旬に長崎県支部の運営についての手引き（規約）承認等が残っております。

手続きが完了しますと、長崎県支部年次大会を6月14日（土）、ホテルセンリュウ（諫早市）で開催する予定です。

「長崎県技術士会総会」を先に行い、引き続き「支部年次大会」、記念講演としての「CPD

研修会」、その後「懇親会」を計画しております。

後日ご案内致しますが、長崎県技術士会、日本技術士会長崎県支部合同で行う予定ですので、両会の多数の皆様の参加をお願い致します。

これまで長崎県内におきましては、長崎県技術士会が日本技術士会長崎地区の役割を担って参りました。

設立後の活動につきましても、今までどおり「長崎県技術士会」と一体となった活動を行う事が重要と考えております。

従いまして、今までの九州本部との連絡調整に加え、設立後支給されます統括本部からの交付金を活用し、県技術士会と一体となり技術士としての責務である継続研鑽の機会を増やして参りたいと考えております。

私自身も就任後10ヶ月程度で未熟なところが多く、ご迷惑をかけることが多いと思いますが、皆様方のご協力を得ながら努めて参りたいと思っておりますので、今後ともご指導ご鞭撻を宜しくお願い致します。

今後益々技術士会の交流が進み、技術士会が益々発展することを願いますと共に、会員皆様のご活躍を祈念致しまして、支部設立状況、今後の行事予定等の報告と致します。

※ 機関紙発行担当者より

平成26年度に入り上記事の中に有りますように、6月14日（土）に総会・研修会・交流会を諫早市で予定しています。また平成26年度版の会員名簿を作成しますので、新しく職場や組織等が変更になった方々は所属・連絡先などをお早めにご連絡いただきますように、よろしくお願い致します。

園田 直志

N.ソノダ技術士事務所

〒852-8021 長崎市城山町2-4

TEL 080-3226-7200 FAX 095-861-8279

Email: sonoda_naoshi@icloud.com

松本 守

(有) 創拓エンジニアリング

〒852-8041 長崎市清水町2番4号 FGEX 長崎ビル3F

TEL 095-849-1781 FAX 095-849-1749

Email: so_matu@d2.dion.ne.jp